



バーゼルワールド2015

パテック フィリップ ジュネーブ
2015年3月

パテック フィリップ・スプリット秒針クロノグラフ5370モデル： 精度を重んじる紳士のためのタイムピース

クロノグラフ計測を中断せずに中間タイムを測定することができるスプリット秒針クロノグラフは、常にパテック フィリップの最も得意とする分野のひとつであり、また最も追い求められるコンプリケーション機能のひとつである。1920年代に発表されたパテック フィリップ最初の腕時計クロノグラフは、スプリット秒針を搭載したものであった。パテック フィリップの新しいスプリット秒針クロノグラフ5370モデルは、愛好家、コレクターたちが正に待ち望んでいたタイムピースだといえよう。高度なメカニズムを覆う本黒七宝の文字盤の存在が、このモデルにさらなる魅力を加えている。

2009年、パテック フィリップが当時最新の自社開発・製造クロノグラフ・ムーブメントとして、クラシックな構造（手巻、コラムホイール、水平クラッチ）を持つキャリバーCH 29-535 PSを発表した時、やがてこれに《R》の文字（《CHR》はフランス語でスプリット秒針クロノグラフを意味する）を加えた新しいムーブメントが発表されることが期待されていた。予想に違わず2012年、スプリット秒針クロノグラフに加え永久カレンダーをも搭載した5204モデル（キャリバーCHR 29-535 PS Q）が発表され、愛好家、コレクターの間に空前の熱狂を巻き起こした。新作5370モデルに搭載されているのは、この魅力的なムーブメントから初めて永久カレンダー機能を除いた、キャリバーCHR 29-535 PSである。短時間の経過時間を計測することに主眼を置いたタイムピースであるため、その外観はあくまで男性的であり、真正、伝統、機能性、信頼性、精度、控えめさ、時を超越したエレガンスなどの価値を重んじる紳士たちを惹きつけるモデルとなっている。

ニューモデル5370モデルのスプリット秒針クロノグラフは、プッシュボタンを2つ備えるタイプである（2時位置のプッシュボタンでスタート、ストップ、4時位置のプッシュボタンでゼロ復帰、リュウズに統合されたプッシュボタンでスプリット秒針のストップ、再スタートを行う）。パテック フィリップの現行コレクションにこのタイプのスプリット秒針クロノグラフがひとつ追加されたことになる。これは超薄型シングルプッシュボタン・スプリット秒針クロノグラフ5959モデル（ただひとつのプッシュボタンでスタート、ストップ、ゼロ復帰、リュウズに統合されたプッシュボタンでスプリット秒針のストップ、再スタートを行う）とは異なる機構である。

本黒七宝の文字盤

5370モデルの文字盤を一瞥すると、マニュファクチュール パテック フィリップにおける《機能に裏づけされた造形美》というものが理解できる。それは真に必要なもの以外の余計な装飾を排し、優れた視認性を実現する、ということに他ならない。スリムな夜光付リーフ型時、分針とホワイトゴールドの植字ブレゲ数字により時刻を明確に表示し、スチールにロジウム・プレートを施した、同一デザインの細いクロノグラフ秒針とスプリット秒針、およびホワイトゴールドの瞬時運針式30分計表示針と、ブラックに映えるホワイトの転写スケールも、クロノグラフ計測をこの上なく容易にしている。文字盤のブラックは、真の七宝のみが実現し得る漆黒である。偉大な伝統を忠実に受け継いで製作されたこの文字盤は、パテック フィリップ創業当時の最も美しい懐中時計を想起させる。これはまたマニュファクチュール パテック フィリップのオーナー、スターン家のルーツにもつながる。スターン家は、1932年にパテック フィリップの経営権を譲り受けるまで、《スターン兄弟文字盤会社》のオーナーとして最高の名声を得ていたのである。

七宝文字盤の製作は、過去においても現在においても、技術上、創作上きわめて大きなチャレンジである。新しいスプリット秒針クロノグラフ5370モデルの文字盤は、ホワイトゴールドのディスクに手作業で黒七宝を施し、摂氏850度に加熱して溶解させ、ガラスのように均一な表面が得られるように細心の注意を込めながら冷却する。その結果得



られた漆黒は、ギリシャ時代の七宝作品に見られるように、何世紀にもわたって同一の深みと輝きを保持するのである。次は、硬く脆い七宝表面に、ホワイトゴールド植字ブreg数字の足を差し込むための微細な穴を開ける工程である。ブreg数字とホワイトの転写スケールは、黒七宝と理想的なコントラストをなしている。文字盤外周には1,000 mベースのタキメーター目盛が加えられており、このスプリット秒針クロノグラフの《計測機器》としての側面と共に、男性的なタッチを強調している。

将来性溢れるムーブメント

本黒七宝文字盤の内側では、パテック フィリップ完全自社開発・製造ムーブメントが脈動している。これまでは永久カレンダーを加えたバージョン（キャリバーCHR 29-535 PS Q）のみが存在したが、今回発表されたスプリット秒針クロノグラフのみを搭載するキャリバーCHR 29-535 PSは、純粋なクロノグラフ愛好家に大きな喜びを与えるに違いない。5370モデルの外装と同じく、キャリバーCHR 29-535 PSは伝統と革新の融合を体現している。その基本構造（手巻、コラムホイール、水平クラッチ）は、多くの高級機械式タイムピース愛好家にとってクロノグラフの最高峰の同義語である。しかし数多い特許取得の技術革新が加えられたことにより、二十一世紀を代表する最も先進的なクロノグラフ・ムーブメントと呼ぶにふさわしいものとなっている。

- ・ エネルギー伝達効率を向上させ、摩擦を減少させる、クロノグラフ輪列の新しい歯型曲線。
- ・ クロノグラフ中間車とクロノグラフ車の噛み合い調整は、コラムホイール上部に設けられた大型の偏心シャポー（カバー）が、クラッチレバー先端に直接働くことにより行なわれる（従来の機構では、クラッチレバーに隣接する偏心軸がこれを行っていた）。
- ・ 復針レバーの2つのハンマー（クロノグラフ秒、分）には自動位置決めシステムが備えられており、これにより分ハンマーの個別切削調整が不要となり、メカニズムの信頼性が向上している。
- ・ クラッチレバー（クロノグラフ中間車を移動させる）とブロッキングレバー（クロノグラフ車をストップさせる）の同期を、コラムホイールを介さずに直接行う。
- ・ 分積算計カムに設けられた弧状の切り欠き部により、ゼロ復帰（リセット）時におけるショックを減少させ、クロノグラフ秒針の振れを軽減させている。

クロノグラフに関する上記の技術革新に加え、スプリット秒針クロノグラフのみに関する新しい技術革新が加わっている。

- ・ スプリット秒針レバー・アイソレーターとは、スプリット秒針のストップと同時に、スプリット秒針レバー（スプリット秒針車上にある）をスプリット秒針ハートカム（クロノグラフ秒針車と一体）から隔離する（アイソレートすることにより、ハートカム（特に右側カーブ上）をスプリット秒針レバーが滑動する際に生じる抵抗をなくそうとするものである。新しいスプリット秒針レバー・アイソレーターは、そのエレガントな形状と相まって、ムーブメントの厚さを薄くできるなど大きな利点を持つ。
- ・ スプリット秒針がクロノグラフ秒針に追いつき、重なり合う際、従来の方法では可動部分の遊びにより重なり合いが完全ではなかった。新しい機構では、スプリット秒針ハートカム（クロノグラフ秒針車と一体）の凹部に圧着されるスプリット秒針レバー（スプリット秒針車上にある）のルビーローラー部分を改善し、ローラーを挟んで2つの平面部分を設けることにより、両者の完全な重なり合いを実現した。

以上のメカニズムは、巧妙な仕組みによって際立っているだけではない。パテック フィリップのすべてのムーブメント同様、各々の構成部品に施された精緻な手仕上げによっても、他に類を見ないのである。大部分のスチール部品は念入りに面取りを施し、表面は滑らかに仕上げられている。またスプリット秒針クランプにはポリッシュ仕上げが施されている。構成部品のポリッシュ仕上げとサテン仕上げが華麗なコントラストをなし、さらに受けに施されたゴール



ドのエングレービングと赤い穴石（ルビー）の織りなす美しさが加わる。これらすべてはサファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞することができる。偉大な時計製作の伝統を受け継ぐ、細心の配慮を込めた手仕上げは、日差-3〜+2秒という他に類を見ない厳格な計時精度と並び、時計産業界で模範とされ、最も厳格と評される独自の品質レベル、パテック フィリップ・シールの認定規準に定められている。

気品溢れるプラチナ・ケース

パテック フィリップの新しいスプリット秒針クロノグラフ5370モデルは、内に秘められた希少な生命にふさわしい、重厚なプラチナ・ケースを備えている。もちろん、ムーブメントと同じくマニファクチュールパテック フィリップの工房で、創作、設計、60トンプレスによる冷間鍛造、切削加工から、バリ取りやポリッシングなどの時間のかかる手仕上げ工程までのすべてが行われている。最後に、マニファクチュールパテック フィリップのすべてのプラチナ・モデル同様、ケース側面の6時位置にトップウェッセルトン・ダイヤモンドがセッティングされる。ジュネーブ最後で最古の独立した家族経営の時計メーカー、パテック フィリップでは創作デザインも家族の仕事であり、クリエイティブ・ディレクター、サンドリン・スターン女史はティエリー・スターン社長の奥方である。新しい5370モデルの創作にあたり、スターン女史は、偉大なクラシックとしてのすべての条件を備えたデザインを提案した。丸みを帯びたケースは、優美なカーブが交錯している。凹型のベゼルが、わずかにふくらみを帯びたサファイヤクリスタル・ガラスとケースとの完璧なハーモニーを実現している。楕円形のクロノグラフ・プッシュボタン、およびスプリット秒針プッシュボタンのついた刻み入りのターバン型リュウズは見る人の注意を惹きつける。ラグも同様に洗練されている。デリケートなカーブがケースとの連なりを美しく演出し、水平方向のサテン仕上げがこれを強調している。さらに各々のラグの先端は、ホワイトゴールドのカボションにより装飾されている。プラチナ950仕様の折り畳み式バックル付ブリリアント・ブラックのラージ・スクエア・ハンドステッチ・アリゲーター・バンドを装着している。完璧さに到達することは人知を超えたとしても、パテック フィリップがこのモデルで実現したことは、それに限りなく近いといえるだろう。マニファクチュールパテック フィリップの新しい創作タイムピース、スプリット秒針クロノグラフ5370モデルを手首に着用することのできる少数の人々は、蓋し幸運といわざるを得ない。





技術仕様

パテック フィリップ・ スプリット秒針クロノグラフ5370モデル

ムーブメント	キャリバーCHR 29-535 PS 手巻ムーブメント スプリット秒針クロノグラフ (2個のコラムホイール、水平クラッチ、瞬時運針式30分計、クロノグラフ秒針、スプリット秒針)、スモールセコンド。
直径：	29.6 mm
総厚：	7.1 mm
部品総数：	312個
石数：	34石
連続駆動可能時間：	最小55時間、最大65時間
テンプ：	Gyromax®
振動数：	28,800 振動 (片道) /時 (4 Hz)
髭ぜんまい：	ブレゲ髭ぜんまい
髭持ち：	可動式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置： 巻上げ ・引き出した位置： 時刻合わせ
表示：	時針・分針 (センター) クロノグラフ秒針、スプリット秒針 (センター) サブダイヤル： ・30分計 (3時) ・スモールセコンド (9時)
プッシュボタン	・スタート、ストップ (2時) ・ゼロ復帰 (4時) ・スプリット秒針ストップ、再スタート (リュウズに統合されたプッシュボタン)
刻印：	パテック フィリップ・シール





外 装

- ケース： プラチナ950、サファイヤクリスタル・バックとプラチナ・ケースバックが共に付属、スプリット秒針ストップ、再スタート用プッシュボタンを統合したリュウズ、楕円形のクロノグラフ・プッシュボタン（2時：スタート、ストップ - 4時：ゼロ復帰）ケース側面6時位置にトップウェッセルトン・ダイヤモンド
3気圧防水
- 寸 法： ケース径： 41 mm
長さ： 49.92 mm（ラグ～ラグ）
幅 ： 45.62 mm（3時～9時、リュウズを含む）
厚さ： 13.56 mm（サファイヤクリスタル・ガラス～サファイヤクリスタル・バック）
- 文字盤： 18金ホワイトゴールド、本黒七宝文字盤
18金ホワイトゴールドの植字ブレゲ数字
ホワイトの転写スケール：シュマン・ド・フェール（レール）型分スケール、1,000 mベースのタキメーター目盛、30分計（3時）、スモールセコンド（9時）
18金ホワイトゴールド夜光付リーフ型時・分針
サンドブラスト仕上げロジウム・プレートのスチール製センター・クロノグラフ秒針、スプリット秒針
18金ホワイトゴールドのリーフ型30分計およびスモールセコンド表示針
- 革バンド： ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーはブリリアント・ブラック
プラチナ950 折り畳み式バックル付

